

千葉県立我孫子高等学校

1 学校の紹介

本校は、学校教育目標として「高い知性」「豊かな情操」「逞しい心身」を掲げ、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指し、昭和45年に設立された。生徒が将来豊かな教養を備えた社会人として活躍できるよう、「文武両道」の教育を推進しており、部活動加入率は90%を超える。本校の努力目標である「確かな学力の充実」の実現のため、「基礎学力及び知的好奇心の向上を目指した教育課程の改定」を行っており、その一環として朝読書を組み込むことで、生徒が本に親しむきっかけの創出に努めている。

また「特別活動の充実」に含まれる「外部の文化的・体育的行事への積極的派遣」の具体としてビブリオバトルを挙げ、読書活動に関連する目標としている。

2 自校の図書館の現状

本校は教室棟と管理棟から成り、図書館は管理棟3階、窓から手賀沼が一望できる景色のよい場所に位置している。しかし生徒の居る教室棟から離れた不便な所にあることや、多くの生徒が部活動に勤しんでいることなどから、放課後はほぼ特定の生徒の利用に偏っている現状がある。一方、業間休みの教室移動の合間に立ち寄る生徒がいたり、昼休みには3年生が受験勉強をしていたりと、学校司書が常駐し終日開館できていることによる意義は大きい。

また、授業等で図書館を利用する時間が増えたことで、貸出数は年々増加傾向にあり、今後もさらに多くの生徒が活用できるよう図書館側から積極的に働きかけを行っていくことで、図書館が生徒にとってより身近な存在となっていくことが期待できる。

3 司書教諭及び図書主任等の教員の取組

(1) 校内組織と主な役割

以前は図書部として独立していたが、3年前に分掌改編があり、4名の図書部員から教務部の中の図書係3名、教務の仕事との兼務になった。さらに昨年の改編では管理厚生・図書部となり、9名で校内の美化活動、図書、視聴覚関連のに関する業務を行っている。その中で図書に関する事柄については3名が主に図書と視聴覚を担当し、図書委員会は司書と教諭1名が担当している。

(2) 生徒や教員に対する支援

ア 図書館の運営に関すること

図書館が利用しやすく、魅力的な場所となるよう、生徒や職員のニーズに合わせた環境作りを行っている。入り口正面の新作本コーナーに加え、絵本や映像化した原作本、図書委員や先生のおすすめのコーナー等も設置している。また、雑誌や新聞のコーナーはリラックサして閲覧できるようソファも置いている。情報機器はインターネット用と蔵書検索用パソコンが置かれ、自由に利用でき、調べ学習等にも対応している。

[新着本コーナー]



[修学旅行コーナー]



[雑誌・新聞コーナー]



図書館資料はコンピュータで管理されており、日本十進分類法を基本として分類別に配架し、学習に配慮した工夫を行っている。また毎年、図書委員会では蔵書点検を行っており、資料の更新、廃棄をし読書環境の整備に努めている。

新入生に対しては4月のオリエンテーション時に図書館利用のガイダンスを約20分間、クラスごとに行っている。「図書館の利用案内」を基に、貸出・返却の手順、利用マナー、資料の支援、日本十進分類法、人気本の紹介など簡単に説明をしている。

2、3年生については授業で利用する都度、時間を設けてもらい、日本十進分類法、館内の本の配置、資料の使い方などの説明をしている。職員に対しては、年度当初の職員会議で図書館利用について、蔵書でない資料提供のサービスについてのプリントを配布し、その後の授業支援については個々に対応をとっている。

イ 読書推進活動に関すること

読書活動の取組として、朝の10分間、全校一斉朝読書を行っている。読書の習慣を付けることや読書に親しむだけではなく、1時間目の授業の落ち着きに繋がっている。また全学年が購入している学習手帳には読書の記録をする欄が設けられている。

広報活動として、図書館便りを定期的に発行し、新着図書の案内、授業に参考になる資料、図書に関する情報等の紹介をしている。

その他にも岩波書店と筑摩書房がタイアップした新書POPコンクール、東洋大学現代学生百人一首、伊藤園お〜いお茶新俳句大賞、青少年読書感想文千葉県コンクール、読書感想画千葉県コンクール、我孫子市めるへん文庫童話など積極的に様々な外部の募集にも取り組んでいる。

(3) 学習等に関する支援

ア 教科指導に関すること

授業での図書館利用促進のため、学年や教科などと連絡を密にすることで対応をしている。教科に関しては、シラバスを参考に蔵書を見直し、資料を収集している。教科単元に関連した資料で本校にない資料は千葉県立図書館の相互貸借制度を利用している。1年生の探究的な学習ではテーマが地域に関することだったため、関連する資料を市立図書館より提供していただき、各クラスに配布した。

また今年度は3学年の国語の授業において図書館を活用する授業が行われた。以下がその概要及び指導案である。

- 1 授業年月日 2019年10月30日(4限)
- 2 教科 現代文B(2単位)
- 3 授業クラス 千葉県立我孫子高等学校普通科3年F組(男子26名 女子13名)
- 4 教科書 三省堂『精選現代文B[改訂版]』
- 5 単元 近現代詩の鑑賞：鮎川信夫『死んだ男』
- 6 単元の目標
 - ① 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などをとらえ、表現を味わうこと。
 - ② 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
 - ③ 生徒の読書意欲を喚起し、読書の幅を一層広げ、文字・活字文化に対する理解を深めること。
- 7 使用教材

教科書：鮎川信夫『死んだ男』、図書資料、配布プリント

8 授業構成〔5(6)時間構成〕

時間(場所)	学習活動	具体的な評価規準(評価方法)
1時間目 (図書館)	◎「 <u>詩を考える</u> 」 本時にて扱う	本時にて扱う
2時間目 (図書館)	◎「 <u>贈る詩を詩集から選ぶ</u> 」 ① クラスメイトに贈りたいと思える詩を詩集から選び、プリントに書き写す。	・詩集から詩を選び、その選択理由を明確にしている。 (記述の点検：配布プリント)
3時間目 (教室)	◎「 <u>詩を受け取る&『死んだ男』を鑑賞する</u> 」 ① 詩をクラスメイトに贈る、受け取る。 ② その詩を鑑賞するために、教科書掲載の鮎川信夫『死んだ男』の鑑賞をクラス全体で行っていく。	・自らで考えながら、『死んだ男』の鑑賞を深めている。(記述の点検：配布プリント)
4時間目 (教室)	◎「 <u>鑑賞文の書き方を知る</u> 」 ① 引き続き『死んだ男』の鑑賞を行った後、いくつかの鑑賞文を読み、その特徴を掴む。 ② クラスメイトより贈られた詩の鑑賞文を書くため、観点別等で検討していく。 ③ 鑑賞文を書き始める。	・自らに与えられた詩を、分析的に鑑賞しようとしている。 (記述の点検：配布プリント)

5 (6) 時間 目 (教室)	◎「鑑賞文の完成&読み合い」 ① 鑑賞文を完成させる ② 詩を贈ってくれたクラスメイトに鑑賞文を渡し、コメントをもらう。	・鑑賞文を書き、自らの考えを示すことができる。 (記述の点検：完成した鑑賞文)
-----------------------	--	--

9 本時の目標

- ① 音律や形式等、詩の特質について理解を深める。 (知識・技能)
- ② 詩の定義や特質について考え、その結果を的確に他者に伝える (思考・判断・表現)
- ③ 詩の定義や特質について考えるとともに、他者の意見を聞いて、自らの把握の仕方を捉え直したりしようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

10 授業計画案

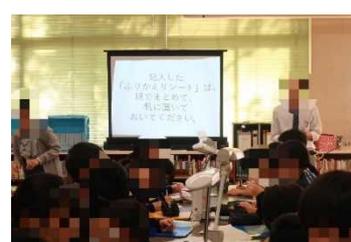
指導課程	学習内容	生徒の活動【教員の指導、留意点】	評価規準(評価方法)
導入 (10分)	・ 様々な詩を知る	① 様々な詩の紹介を聞く。これから詩について学んでいくことを知る。 【パワーポイントを使用し、草野心平『天気』など、特質がわかりやすい詩を紹介する。】	・ 詩について興味・関心を持つことができる。(行動の観察)
展開全体 (30分) ・ 展開 I (20分)	I ・ グループで詩について考える	【プリント1を配布。】 ① A3版ワークシート：問1「詩とはどのようなものか」という課題について4人ほどの班になり、考え、話し合い、記入する。その後クラスで共有し、教員の説明を聞く。 ② 問2「詩はどのような観点から見ることができるのか」、KJ法を用いて、考える。はじめに個人で考え、ふせん3～5枚にまとめ、班で共有し、「〇〇性」でグループ分けをする。その後、各班発表しながらクラスで共有し、教員の説明を聞く。 【机間巡視をし、適宜、支援。】	・ 詩について考え、他者に納得してもらえよう、根拠をもって伝えようとしている。また他者の意見や考えを積極的に受け止めようとしている。(行動の観察：グループワークにおける発言、姿勢)
・ 展開 II (10分)	II ・ 今後の見通しを持つ	【プリント2を配布。】 ① この後、クラスメイトに詩を贈り、また贈られた詩を鑑賞して文章を書	・ 詩の特質について理解を深める事ができる。(記述の点検：記入したプリント1)

	・本を知る	くことを知り、今後の見通しを持つ。 ② 司書による、次回、詩を選ぶために用意された詩集に関するブックトークを聞く。	
まとめ (10分)	・次回への準備 ・ふりかえり	① 詩を贈る相手をくじ引きで決める。 【振り返りシートを配布。】 ② 各自で振り返りシートに本時で学んだことを記入する。 ③ 次の時間にやることを確認。振り返りシートを提出し、終了する。	・本時の取組を振り返ることで、自らの把握の見直しや理解の深化に努めることができている。 (記述の点検：記入した振り返りシート)

11 本時の評価

- ① 音律や形式等、詩の特質について理解を深めることができている。 (知識・技能)
- ② 詩の定義や特質について考え、その結果を的確に他者に伝えることができている。
(思考・判断・表現)
- ③ 詩の定義や特質について考えるとともに、他者の意見を聞いて、自らの把握の仕方を捉え直したりしようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

[授業風景]



イ 特別活動に関すること

図書委員会は各クラス2名を選出し、委員長、副委員長、書記、会計のほか業務分担別に責任者を決めて活動している。全学年が学年順に毎日昼、放課後のカウンター当番を行い、分担別に蔵書点検、委員会だよりなどの定期的発行に携わっている。

年度初めには、図書委員全員が生徒におすすめする本を冊子にして5月にクラスに配布、朝読書の参考になるようサポートしている。その他にも学年ごとのイベントとしてミニ・ビブリオバトル大会、外部講師による絵本の読み聞かせの講習会、地域の文化を学ぶために俳句の先生を講師に招いての俳句教室なども行っており、今年度は特別活動を充実するために、外部のビブリオバトル大会の予選に2名の生徒が参加

した。図書委員会では日常の業務から行事の運営など生徒が自主的に行えるよう指導している。

校外学習、文化祭関係については蔵書一覧を図書館だよりで案内し、時期に併せてコーナー作りをしている。例えば2年生は11月に台湾修学旅行があるため、館内に台湾コーナーを設置し、資料を展示、貸出を行った。3年生向けには進学・就職、小論文に対応した進路のコーナーを設け、資料を展示し、進路室と併せて利用できるようにしている。入試対策として新書や岩波ブックレットを別置き、分類別に配架もした。

(4) 学校司書や公共図書館との連携・授業支援

授業で利用する資料や、職員・生徒のリクエストで蔵書にない資料は千葉県立西部図書館との相互協力を利用して、県立図書館、高校図書館、市立図書館から取り寄せ、速やかに対応をしている。この多くの資料を収集するための便利なサービスは、授業支援や教材研究の支援に大いに役立っている。市立図書館とは団体貸出の手続きもしているため、職員全員が資料の貸出や返却もすることができる。

他にも昨年から市立図書館と連携して、1年生の家庭総合の授業の保育分野で市立図書館の司書から講義・実習の授業支援もお願いしている。

4 成果と課題

今年度、読書活動推進校に指定されたことにより、司書教諭はじめ各教科の授業における学校図書館の活用が行われるなど、この事業への参加が本校における読書活動の推進に繋がった。昨年度、授業における図書館活用が限られた教科のみであったこともあり、今年度、複数教科にわたり図書館の活用がなされたことは本校における大きな変化であったと考える。しかし、未だ図書館を生かした授業の回数やその展開は十分な状態であるとはいえない。そのため今年度を端緒にして読書推進活動の継続的発展を行うことや、現在、図書館活用が見られない教科にもその活用を促すなど読書推進活動の拡充を図ることで、学校図書館が主体的・対話的な深い学びを展開できる一つの場としての存在感を強めていく必要がある。

今後は学校司書および司書教諭だけでなく、学校全体としての読書活動の充実を目指していきたい。そのような活動を地道に積み重ねていくことが生徒の自発的な読書活動、ひいては生涯にわたって読書に親しみ、学び続ける姿勢を育てていくものとする。